The Japan Society for the Study of Education

行為理論研究にもとづく情報教育カリキュラムの編成原理

小柳　和喜雄
常磐大学人間科学部

本研究発表は、昨年度に発表した「80年代のドイツにおける情報教育カリキュラムの争点と課題」の継続研究である。

情報教育カリキュラムをどのように編成するか、その編成原理を、現在ドイツで注目されているプロジェクト方式の授業と深く関連する行為研究に求めたものである。行為研究は、ドイツの教育学研究において、70年代にW.クラフキーによって提案されてきた批判的－構成的教育科学と関わりを持ち、カリキュラム研究にもその影響は大きい。昨年度の研究成果より、情報教育カリキュラムの編成原理を考察する場合、そのカリキュラム研究を断片的に取り扱うのでなく、教育学研究の流れの中で、一般的なカリキュラム研究の編成原理、その考え方の変遷を理解していくことが不可欠であることがわかった。そこで原理的な情報教育カリキュラムの基本構想を明らかにして行くために、次のようなアプローチをとる。

まず第一に、クラフキーの諸論文を中心に、ドイツにおける70年代移行の教育学研究の学説史的展開の中で、カリキュラム開発に対する行為研究の位置、その意味内容を明らかにしていく。第二に、行為研究にもとづくカリキュラム研究の具体的な内容を明らかにする。そして最後に、行為研究にもとづく情報教育カリキュラムの編成原理について検討を加える。

1．ドイツにおける行為研究の位置と意味内容　－クラフキーを中心に－

(1)70年代以降の教育科学研究の動向

批判的－構成的教育科学の提唱：解釈学－経験論－イデオロギー批判

(2)批判的－構成的教育科学と行為研究

クラフキーによれば、行為研究は、次の3つの特徴を持つ。

①認識関心ともに、その問題設定において、最初から教育実践に関係づけられている。

②その都度、実践的な解決の試みと直接結びついて行われ、実践からの反作用を受ける。

③研究者と学校実践者との協力・相互作用関係を導く。

2．行為研究にもとづくカリキュラム研究の具体的な内容

(1)認知的な行為理論と行為指向的な授業の考察。

(2)行為指向的な教授・学習の包括的な構想としてのプロジェクト授業：行為研究にもとづくプロジェクト授業構想の10のメルクマール。

(3)行為状況を授業へと統合していく具体的事例の考察。

3．行為研究にもとづく情報教育カリキュラムの編成の視点

NII-Electronic Library Service